

環境目標とその実績、評価(平成16年度・17年度・18年度)

No.	環境目的	年度	環境目標	具体的な取組例	実績・状況	評価
1	研修支援事業(受入事業)における環境教育の推進	16年度	野外炊事を含む活動プログラムを通じ「環境に配慮して行動」を働きかける	①プログラム検討等の事前説明や、入所オリエンテーション、プログラム実施に、当所の取組を説明し、協力を依頼 ②赤城の自然環境を生かした活動の紹介 ③周辺自然情報の提供	稼働数にして126,438人の方に利用いただき、自然環境を意識した活動・生活に取り組んでいただいた	目標達成
		17年度	野外炊事を含む活動プログラム指導時に、環境や自然に関する視点を持てるよう指導する	①プログラム検討、入所手続き、施設オリ、代表者会議、退所点検時等において、環境配慮や当所環境マネジメントシステムに関する説明と協力依頼を必ず行う ②所内適所に、環境配慮や当所環境マネジメントシステムに関する掲示等を行う ③退所時の利用者アンケートで、ゴミの減量・分別に積極的に取り組もうと思うという回答を半数以上から得られるよう努める ④環境を意識した活動プログラムの改良(野外炊事含む)及び開発する ⑤所周辺の自然情報の収集や提供をおこなう	稼働数にして112,714人の方に利用いただき、環境問題を意識した活動・生活に取り組んでいただいた 利用者アンケート結果 ゴミの減量に取り組む 95.54% ゴミの分別に取り組む 99.04% 活動プログラム「ムササビ見隊(みたい)！」開発 ヤマガラ育雛ライブ・周辺の野生動物の写真紹介の実施	目標達成
		18年度	野外炊事を含む活動プログラム指導時に、環境や自然に関する視点を持てるよう指導する	①プログラム検討、入所手続き、施設オリ、代表者会議、退所点検時等において、環境配慮や当所環境マネジメントシステムに関する説明と協力依頼を必ず行う。 ②所内適所に、環境配慮や当所環境マネジメントシステムに関する掲示等を行う。 ③退所時の利用者アンケートで、ゴミの減量・分別に積極的に取り組もうと思うという回答を80%以上から得られるよう努める。 ④環境を意識した活動プログラムの改良(野外炊事含む)及び開発する。 ⑤所周辺の自然情報の収集や提供をおこなう。	稼働数にして107,927人の方に利用いただき、環境問題を意識した活動・生活に取り組んでいただいた 利用者アンケート結果 ゴミの減量に取り組む 97.64% ゴミの分別に取り組む 99.74% 活動プログラム「ムササビ見隊(みたい)！」の実施、カメラ設置によるライブ紹介 周辺の野生動物の写真紹介の実施	目標達成
2	企画事業(主催事業)における環境教育の推進	16年度	「環境」をテーマにした主催事業を2事業実施する。 また、他主催事業においても、環境を意識した運営をする	①青年の家のメインテーマ「環境」「ボランティア」に加え、赤城テーマ「福祉」を3事業柱として、年間13事業15回の主催事業を企画・実施 ②実施時には、ゴミの分別や削減、省エネの呼びかけ、エコ商品の活用等を行う	環境テーマの2事業「“環境の日”から始めよう」「環境教育関東ミーティング」を実施 他の主催事業(11事業13回)も環境やボランティアを意識した企画・運営を実施	目標達成
		17年度	環境教育をねらいとした主催事業を6事業、環境を意識した主催事業を10事業、その他準主催事業を通してより多くの参加者に働きかけるとともに参加者満足度90%以上をめざす	①環境教育を主なねらい(テーマ)とした主催事業の企画・実施 ②環境配慮を意識した主催事業の運営を通じて、参加者へ環境配慮を意識づける ③主催事業等の参加者数や参加満足度を向上させ、より多くの人に働きかける ④事業実施後、参加が有意義だったかアンケート調査を行う	環境教育を主なねらいとした6事業「野外活動指導者研修会」「“環境の日”から始めよう」「あかぎ自然学校自然探索部」全3回「環境教育関東ミーティング」、環境配慮を意識した10事業実施 主催事業参加者2,119名への普及効果と、有意義であったとのアンケート回答98%	目標達成
		18年度	環境教育をねらいとした企画事業を2事業、環境を意識した企画事業を10事業、その他準企画事業を通してより多くの参加者に働きかけるとともに参加者満足度90%以上をめざす	①環境教育を主なねらい(テーマ)とした企画事業の企画・実施 ②環境配慮を意識した企画事業の運営を通じて、参加者へ環境配慮を意識づける ③企画事業等の参加者数や参加満足度を向上させ、より多くの人に働きかける ④事業実施後、参加者の満足度についてアンケート調査を行う	環境教育を主なねらいとした2事業「“環境の日”から始めよう」「環境教育関東ミーティング」、環境配慮を意識した8事業実施 企画事業参加者623名への普及効果と、有意義であったとのアンケート回答99.61%	目標達成

3	グリーン調達率の向上	16年度	食材調達先の調査を行い、地元食材(とくに生野菜)を取り入れる方策やメニューを検討し、国・県内産調達を心がける	①国内、県内産食材活用したメニューの再考 ②グリーン調達に適した業者の選定及び交渉	生野菜については、 ほぼ100% が国内産、更に県内産の割合も徐々に高まっている	目標達成
		17年度	食材調達先の調査を行い、地元食材(とくに生野菜)を取り入れる方策やメニューを検討し、国・県内産調達を心がける	①目的にかなう納入業者を選定する ②地元業者による地元青果を使用したメニュー開発を行う ③食材購入先を掲示する等して、利用者にもアピールする	生野菜産地: 県内産50.66%、 国内産100% 納入 食堂の野菜コーナーに生産者氏名表示	目標達成
		18年度	生野菜における国内産の調達額の割合を 100% とする。	①目的にかなう納入業者を選定する ②地元業者による地元青果を使用したメニュー開発を行う ③食材購入先を掲示する等して、利用者にもアピールする	生野菜産地: 県内産56%(うち富士見村産25.6%)、 国内産100% 納入 県内産野菜のうち更に地元(富士見村)産の比率を高めた 食堂の野菜コーナーに生産者氏名・写真を表示	目標達成
4	グリーン購入率	16年度	グリーン購入法の基本方針に則り、特定調達物品の調達割合を 98%以上 にする (H15年度実績:文房具・用紙96.24%)	①グリーン購入法の基本方針に則り、従来購入品を該当物品に移行して購入する	100% の達成	目標達成
		17年度	グリーン購入法の基本方針に則り、特定調達物品の調達割合を 99%以上 にする	①グリーン購入法の基本方針に則り、該当物品を購入する	100% の調達 浴室棟に環境に配慮した製品(シャンプー・ボディソープ)を設置	目標達成
		18年度	グリーン購入法の基本方針に則り、特定調達物品の調達割合を 100% にする	①グリーン購入法の基本方針に則り、該当物品を購入する	100% の調達 浴室棟で環境に配慮した製品(シャンプー・ボディソープ)を使用	目標達成

電力消費の削減 (食堂を除く全所)	16年度	活動者1人あたり使用量を、H15年度実績(4.92kw/人日)を基準とし 2%削減 する (目標値: 4.83 Kw/人日)	①電気類をなるべく省電力型と交換する ②照明、電気機器類のスイッチ消し忘れチェック徹底 ③利用者への節電を呼びかける	H15年度比 10.2%削減 (4.42 kw/人日)	目標達成
	17年度	活動者1人あたり使用量を、H15年度実績(4.92kw/人日)を基準とし 4%削減 する (目標値: 4.73Kw/人日)	①電気類をなるべく省電力型と交換する ②照明、電気機器類のスイッチ消し忘れチェック徹底 ③利用者への節電を呼びかける ④デマンドコントロール装置導入による消費電力のコントロール ⑤空調機のフィルター等の清掃を徹底	H15年度比 13.4%削減 (4.26 Kw/人)	目標達成
	18年度	活動者1人あたり使用量を、H17年度実績(4.26Kw/人)を基準とし 0.5%削減 する (目標値: 4.24 Kw/人日)	①電気類をなるべく省電力型と交換する ②照明、電気機器類のスイッチ消し忘れチェック徹底 ③利用者への節電を呼びかける ④デマンドコントロール装置導入による消費電力のコントロール ⑤空調機のフィルター等の清掃を徹底	H17年度比 1.9%増 H15年度比 11.8%削減 (4.34 Kw/人)	目標未達成
5 電力消費の削減 (食堂)	16年度	売上げあたり使用量を、H15年度実績(1067.29kw/100万円)を基準とし 3%削減 する (目標値:1035.27 Kw/100万円)	①電気メーターで使用量を毎日記録する ②場所ごとのこまめな消灯 ③冷房の温度を28℃に固定する(厨房内温度は毎日記録する)	H15年度比 6%削減 (1003.47kw/100万円)	目標達成
	17年度	売上げあたり使用量を、H15年度実績(1067.29kw/100万円)を基準とし 5%削減 する (目標値: 1013.93Kw/100万円)	①省電力について都度、朝礼等で喚起を促し、意識付けによる取組の徹底を行う ②冷房の設定温度を28℃に固定し且つ、稼働時間を最小限にとどめる ③空調効率を高める為、稼働中は食堂出入口扉の開放を制限する ④電気の使用量をメーターにより毎日記録する ⑤空調機の吸排口及びフィルターを毎月1回清掃し記録する	H15年度比 5.4%増 (1124.69 Kw/100万円)	目標未達成
	18年度	売上げあたり使用量を、H17年度実績(1124.69 Kw/100万円)を基準とし 0.5%削減 する (目標値: 1119.06 Kw/100万円)	①省電力について都度、朝礼等で喚起を促し、意識付けによる取組の徹底を行う ②冷房の室内温度を28℃に固定し且つ、稼働時間を最小限にとどめる ③空調効率を高める為、稼働中は食堂出入口扉の開放を調整する ④電気の使用量をメーターにより毎日記録する ⑤空調機の吸排口及びフィルターを毎月1回清掃し記録する ⑥自動販売機を省電力型に変更	H17年度比 12.1%削減 H15年度比 7.4%削減 (988.47 Kw/100万円)	目標達成

6	ボイラーにおけるA重油の消費削減	16年度	活動者1人あたり使用量を、H15年度実績(1.336L/人日)を基準とし 2%削減 する (目標値: 1.309 L/人日)	①ボイラー構造を検査し、効率的な燃焼方法を検討する ②使用する研修室の場所を調整し、効率的な暖房をする ③利用者に、冬季の厚着を呼びかける ④入浴・研修時間の見直し ⑤冬季＝閑散期の利用者数を増やす	H15年度比 5.1%削減 (1.267 L/人日)	目標達成
		17年度	活動者1人あたり使用量を、H15年度実績(1.336L/人日)を基準とし 4%削減 する (目標値: 1.282 L/人日)	①ボイラー構造を検査し、効率的な燃焼方法を検討する ②使用する研修室の場所を調整し、効率的な暖房をする ③利用者に、冬季の厚着を呼びかける ④入浴・研修時間の見直し ⑤冬季＝閑散期の利用者数を増やす	H15年度比 8.1%削減 (1.228 L/人日)	目標達成
		18年度	(維持管理項目に移行)		H15年度比 0.5%増 (1.343L/人日)	
7	LPガスの使用量削減(食堂)	16年度	売上げあたり使用量を、H15年度実績(99.01m3N/100万円)を基準とし 3%削減 する (目標値: 96.04 m3N/100万円)	①ガス節約できる、調理手順の再考やメニューの検討を行う ②ガスメーターで使用量を毎日チェックし記録する	H15年度比 9.5%削減 (89.63 m3N/100万円)	目標達成
		17年度	売上げあたり使用量を、H15年度実績(99.01m3N/100万円)を基準とし 5%削減 する (目標値: 94.06 m3N/100万円)	①ガス節約について都度、朝礼等で喚起を促し、意識付けによるガス節約の徹底を図る。 ②ガスの使用量をメーターによる毎日記録する。 ③ガスエネルギーに依存しないメニューを積極的に取り入れる	H15年度比 1.4%増 (100.42 m3N/100万円)	目標未達成
		18年度	売上げあたり使用量を、H17年度実績(100.42m3N/100万円)を基準とし 6%削減 する (目標値: 94.39 m3N/100万円)	①ガス節約について都度、朝礼等で喚起を促し、意識付けによるガス節約の徹底を図る ②ガスの使用量をメーターによる毎日記録する ③ガスエネルギーに依存しないメニューを積極的に取り入れる	H17年度比 2%削減 H15年度比 0.6%削減 (98.45 m3N/100万円)	目標未達成
8	ポリ袋の消費量削減	16年度	年間使用量を、H15年度実績(10,000枚)を基準とし 2%削減 する (目標値: 9,800枚)	①ゴミ箱設置場所や分別の方法等、回収システムを見直す	H15年度比 53.2%削減 (4,683枚)	目標達成
		17年度	年間使用量を、H15年度実績(10,000枚)を基準とし 4%削減 する (目標値: 9,600枚)	①宿泊棟のゴミ箱を撤去し、利用団体の必要に応じてゴミ袋を使用してもらう ②受付時に利用団体ごとの必要枚数を記録する ③当所でのゴミの減量・分別を通して、日常のゴミ問題の意識づけを行う	ゴミの処理方法変更の内容と趣旨について利用者に説明し協力呼びかけることにより、ゴミの減量化を考える一助としての効果を上げた H15年度比 90.3%削減 (969枚)	目標達成
		18年度	(維持管理項目に移行)		ダイオキシン抑制効果のあるポリ袋に変更し、より一層環境に配慮 H15年度比 92%削減 (804枚)	

9	用水使用量の削減 (食堂を除く全所)	16年度	活動者1人あたり使用量を、H15年度実績(0.2015 m ³ /人日)を基準とし 2%削減 する (目標値: 0.1974 m ³ /人日)	①浴室の自動弁の給水量を見直す ②利用者への節水呼びかける	H15年度比 30.1%削減 0.1409 m ³ /人日	目標達成
		17年度	活動者1人あたり使用量を、H15年度実績(0.2015 m ³ /人日)を基準とし 4%削減 する (目標値: 0.1934 m ³ /人日)	①利用者・委託業者への節水呼びかけを徹底する ②ボイラー排水の再利用等システムの見直しを行う ③節水コマを取り付けて節水する	H15年度比 29.1%削減 0.1429 m ³ /人日	目標達成
		18年度	(維持管理項目に移行)		H15年度比 47%削減 0.1067 m ³ /人日	
	用水使用量の削減 (食堂)	16年度	売上げあたりの使用量を、H15年度実績(81.95 m ³ /100万円)を基準とし 5%削減 する (目標値: 77.85 m ³ /100万円)	①食器の見直しによる洗浄水の節約 ②食器洗浄機の運転時間の見直し ③冷却用流水の水量調節や調理過程全体における節水の励行	H15年度比 3.3%削減 79.25 m ³ /100万円	目標未達成
		17年度	売上げあたり使用量を、H15年度実績(81.95 m ³ /100万円)を基準とし 7%削減 する (目標値: 76.21 m ³ /100万円)	①食器洗浄機の運転時間の短縮 ②冷却用流水の水量調節 ③調理過程全体における節水の励行	H15年度比 28.5%削減 58.62 m ³ /100万円	目標達成
		18年度	(維持管理項目に移行)		H15年度比 33%削減 54.92 m ³ /100万円	
10	廃棄物削減(用紙類も含む)	16年度	一般廃棄物処分量を、H15年度実績(129.75 g/人日)を基準として、活動者1人あたり 10%削減 する (目標値: 116.78 g/人日)	①生ゴミの堆肥化による排出量の削減 ②裏紙利用の徹底や、電子回覧の活用等による排出紙類の削減 ③容器包装など持込ゴミの削減	H15年度比 35.4%削減 83.85 g/人日	目標達成
		17年度	一般廃棄物処分量を、H15年度実績(129.75g/人日)を基準として、1人あたり 20%削減 する (目標値: 103.80 g/人日)	①電子回覧等の活用による排出紙類の削減 ②裏紙利用の徹底 ③宿泊棟のゴミ箱撤去により、ゴミ削減の呼びかけを徹底する	H15年度比 58.6%削減 53.72 g/人日	目標達成
		18年度	(維持管理項目に移行)		H15年度比 66.6%削減 43.32 g/人日	

* 維持管理項目 : 既に大幅な削減を達成したため、改善を図る環境目的に設定せず、維持管理して継続的努力を図る項目